

西脇市消費生活センター

No.162 ☎22-3111 (防災安全課内)
 天皇陛下の退位に関連する詐欺にご注意ください

天皇陛下の退位や、改元に乗じた電話勧誘や詐欺に関する相談が、国民生活センターなどに寄せられています。天皇陛下の退位に関連する郵便や電話には十分注意してください。

◆事例1 天皇陛下のアルバムや、掛け軸などの購入を勧める電話勧誘が発生しています。興味本位で話を聞いてしまうと、購入する方向に話が進み、一方的に商品を配送されて代金を請求されることがあります。

◆事例2 改元を名目にキャッシュカードをだまし取ろうとする詐欺が発生しています。自宅に「元号の改元による銀行法改正について」という書類と、キャッシュカード変更申込書、返信用封筒が届き、金融機関や口座番号、暗証番号等を申込書に記載させて、キャッシュカードを郵送させる手口です。

◆アドバイス

◇商品を購入する気がなければ、早めにはっきりと断りましょう。

◇キャッシュカードや通帳は絶対に郵送してはいけません。暗証番号も教えてはいけません。「暗証番号を教えてください」は詐欺です！

おもてなしコラム 35

西脇市では、「日本のへそ西脇地域食材でおもてなし条例」を施行。豊饒の地で生産された地域食材や地場産業などの魅力に認識を深め、郷土に誇りと愛着を持って来訪者をもてなすことで、本市のさらなるにぎわいの創出を目指しています。

■問合せ 農林振興課 (市役所内線 322)



地域食材で市内を盛り上げませんか

西脇市には、黒田庄和牛や山田錦、金ゴマ、黒大豆、イチゴなどの全国に誇れる地域食材があります。

しかし、それらの地域食材が市内で加工・流通・販売される事例は数多くありません。例えば、出荷頭数の8割以上が神戸ビーフに認定される黒田庄和牛は、その多くが市外で販売されています。また、アジアやヨーロッパ、アメリカなどへの輸出が拡大されています。

今後は地域内で経済が循環する仕組みを考えていく必要があります。地元産の安全で安心な農産物を市内で加工・調理し、市内の農産物直売所や飲食店で販売ができれば、地域の活性化につながります。

西脇市が産地化を目指すイチゴや金ゴマは、徐々に市内に浸透しており、ケーキやパフェを提供する飲食店が増えています。このような地産地消の推進や市内外への情報発信の強化、お客さまに喜んでいただける商品やサービスのさらなる充実のためには、地域・行政・民間の事業者間での連携が大切であると考えています。



自治会や各種団体の皆さんによる沿道での振る舞い

市民の皆さんの連携がまちづくりの原動力
 冬の風物詩となった西脇多可新人高校駅伝競走大会が、盛大に開催されました。大会には北は群馬県から、南は熊本県から強豪校が来西。伊那駅伝や日本海駅伝と並ぶ大きな大会です。今年で11回目を数え、毎年多くの市民ボランティアの皆さんが、大会を支えてくださっています。

大会当日は、寒い中、交差点に立つての交通整理、おもてなしの気持ちがいっぱい詰まった炊き出しによる振る舞い、懸命に走る選手たちへの



西脇市長 片山象三

市長からの手紙

西脇を元気に!!

62

心のこもった熱い声援など、本場に多くの方々がこの駅伝大会を盛り上げてくださいました。全国各地から集まってきた選手たちにとって、きつと思いつに残留の大会になったのではないのでしょうか。

私は、市内で開催されるさまざまな行事に、できるだけ参加するようにしています。地域住民やボランティア、各種団体の皆さんが、いろいろな形で協力・連携されている光景が、あちらこちらで増えてきたと実感しています。協力・連携は、まちづくり活動において必要不可欠であると考えています。今後とも、このようなまちづくり活動の輪がさらに広がっていくよう、行政としてできることを、市民の皆さんと一緒に汗を流しながら考えていきたいと思っています。

このまちに住んでいることを誇れる「西脇市」をともに創っていきましょう。



▲幼稚園・小中学校の最高学年時に配布するバッジ

好きです!! にしわぎわたしのふるさと

今、この時を輝いて生きる
 一次世代につなぐ、心豊かな人づくり、まちづくり

教育委員会や学校園の情報をお知らせします。

子どもたちが地域に役立つ活動を行っています

平成23年度から市内の幼稚園児や小・中学生を対象に、「ソーシャルボンド・キッズプラン」と「ソーシャルボンド・マイプラン」を実施しています。これは子どもたちが自分と社会のつながりを自覚し、夏休みなどの長期休業中に社会奉仕活動などを行う取り組みです。

お家の方からのメッセージ

子どもたちは地域のためになる活動を自ら考え、計画を立て、地道に取り組み、自分が身に付けた知識や技術を社会のために活用します。また活動後には、子どもたちが自分の取り組み内容を「活動シート」に書き、そこに保護者がメッセージを添えることになっていきます。この活動によって、ふるさとに貢献したいという子どもたちの気持ちを育むとともに、子どもと保護者とのコミュニケーションを醸成します。

平成30年度の主な取り組み

- ・ごみステーションの掃除
- ・グラウンドの草引き
- ・デイサービスのレクリエーションに参加
- ・運動場に木を植える活動に参加
- ・神社の清掃
- ・市広報紙の配布作業

◆問合せ 青少年センター

(☎22-4000)

心のスケッチ 120

人権教育課コラム

卒業式での「コマ」子育てについて考える

弥生三月。いよいよ今年度最後の月となりました。先日、ある高等学校の卒業式に参列しました。会場の体育館には、卒業生の門出を祝う厳粛で凛とした雰囲気があり、背筋がピンと伸びる心地良い緊張感を覚えました。卒業生が入場するときの割れんばかりの拍手の余韻は、今もなお心に残っています。

式典では学校長をはじめ、来賓の方々から卒業生へ、心のこもった言葉が贈られていました。その一つ一つに温かい思いと、卒業生の将来への大きな期待が込められていることが分かりました。その中で心に残った詩がありました。それは、卒業生に愛情を込めてこれまで育ててこられた、保護者に向けてのメッセージでもありました。

乳児はしっかりと 肌を離すな
 幼児は肌を離せ 手を離すな
 少年は手を離せ 目を離すな
 青年は目を離せ 心を離すな

高校を卒業するわが子のこれまでを振り返りながら、さまざまに記憶や思いが走馬灯のようによみがえったでしょう。涙ぐみ、うなずきながら話に聞き入る保護者が多くおられました。

肌と肌で接することが大切な乳児期。手と手をつないで成長を見守る幼児期。自立に向けて手を離すが、しっかりと見つめることが大切な少年期。それぞれの目指す分野に羽ばたいていこうとするが、心を離してはいけない青年期。子どもと関わるそれぞれの時期には、大切にすべきことがあると改めて気付きました。

虐待によって親が子どもの命を奪う痛ましいニュースが連日報道されており、改めて「子育て」について考えました。社会の宝物である子どもたちが、夢や希望を持って毎日を過ごすためには、親や家族の役割が大きいことは言うまでもありませんが、周囲のサポートもまた、必要であると感じました。

子どもたちの明るいニュースで満ちあふれる社会であってほしいと願います。
 (人権教育課)